

緑化だより

No.131 平成29年9月号



ヤハズソウ

- 季節の花(ヌルデ)
- 小さな世界こけ(樹木の小さなコケ)
- 昆虫の話(チンチロ、リンに想いを込めて)
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内



広島県立植物園
広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園
〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp

季節の花

ヌルデ

「足柄(あしがりの)の わを可鷄山(かけやま)の かづの木の
我(わ)を誘(かづ)さねも 門(かづ)さかずとも」

詠み人しらず 東歌 万葉集 14 : 3432

「足柄のわたしを、心にかけてくれるという名をもった可鷄山の かづの木の
かづという言葉のように 私をかどわかし誘い出してくれないかな、たとえ難しか
ろうとも」

奈良時代、足柄は東国の田舎でした。「かづの木」は相模地方(現在の神奈川県)の
ヌルデの方言で、東国の風俗や方言をまじえた、男の誘いを待つ娘の挑発的な歌です。

ヌルデはウルシ科ウルシ属の落葉小高木で、空き地
や伐採跡地に、はじめに侵入する樹種です。北海道から琉球列島まで国内全域、東南アジアに分布していま
す。ヌルデ(塗る手)という名は、幹を傷つけて白い
汁を採り、塗料として塗ったことに由来します。

雌雄異株で8月から9月、本年枝の先に円錐花序を
つけます。雌花は最初、白花ですが、咲き進むと赤い
子房が目立ってくるので、穂全体が赤っぽく見えます。
雄花は黄白色で雄しべが飛び出しています。葉は互生、
羽状複葉で、葉軸に翼があるのが特徴です。その葉軸
にアブラムシの1種が寄生して、ヌルデシロミミフシ
とよぶ虫こぶをつくることがあります、これを「五倍子」
といいます。この虫こぶの中には多量のタンニンが含ま
れ、皮なめし、医薬品、インク、白髪染めの染料や、
昔はお歯黒に利用されてきました。果実は4mmほど
の球形で、熟すと塩味のする白い粉におおわれます。

戦時中の食料困窮時代や、また信州ではかつて、こ
れを煮詰めて塩の代用にしたと言われています。

ウルシの仲間は紅葉の時期が早く綺麗です。緑から
黄、赤と下の葉から紅葉していく様子が見られて、な
かなか風情があります。緑化センターの園内でもヌル
デの花や虫こぶが見られます。(上村)



ヌルデの花



ヌルデの雄花



ヌルデミミフシ

小さな世界こけ

樹木の小さなコケ

土の上だけでなく、樹木の幹にも色々なコケが観察できます。
コケの種類は、樹木の生育している環境でも変わってきます。やや湿り気のある倒木の上、
半日陰の木の幹、明るく乾燥しやすい場所の木の幹などで、着生しているコケの種類が違
います。大きさも、肉眼で観察できるものからルーペを使わないと葉の形がわからない小さなも
のまでありますが、今回はルーペを使わないと観察が難しいコケを紹介します。

クチキゴケは、湿り気のある、樹皮のとれた朽ちかけた倒木に這うように伸びています。朽木につくのが名前の由来です。黄緑色のうろこ形の葉が交互に重なるようにつきます。同じ場所に、よく似た葉で、葉先が切れ込んだヤバネゴケが見られることがあります。

フルノコゴケは、やや日陰になる樹幹につき、乾燥時は汚れた糸くずがへばりついているようですが、雨上がり、十分に水を吸った茎は、交互に重なりあった、たまご形の葉を広げます。秋には、マッチの軸のような孢子体をつくり、十文字のベージュの花のように割れ、孢子を飛ばします。名前の由来は“古いノコ”からきているようですが、乾燥時の様子がそのように見えるのでしょうか？

もっとも小さいのはクサリゴケの仲間で、中でもカビゴケは谷の水がかかると、湿度が高い、樹木の葉や幹に着生しています。藻類と間違えやすいのですが、近くに行くと、ハッカのような香りで気が付きます。5mm前後の茎が枝分かれし、先の尖った円形の葉が交互につきます。環境省準絶滅危惧(NT)、広島県絶滅危惧I類に指定されています。(山根)



クチキゴケ



フルノコゴケ



ツバキの葉上のカビゴケ

昆虫の話

チンチロ、リンに想いを込めて

お盆を過ぎて、だんだんと夜が長くなり、日中は暑さが残るも夜には多少の涼しさも感じられる頃、秋の夜長を彩るのは様々に鳴く虫の音です。その中でも、笹が風で揺れ、こすれる音の合間に、チンチロ、リンと鳴くマツムシはとても有名な鳴く虫です。

植物の茎に産卵したり、よく飛び跳ねたりするため、スズムシのようにペットとして飼育することが難しいことや、いつも藪の中に潜んでいることから「鳴いていれども、姿は見えず」なこの虫は、その鳴き声の有名さとは裏腹に、その姿を生で見たことのある人はあまり多くないのではないのでしょうか。気になるその姿はスズムシと瓜二つ。真っ黒なスズムシの色を抜いたような赤茶けた色あいをしている事を除けば、ほとんどスズムシと同じ姿をしています。この色が保護色となって、枯れた笹やススキの茎にとまったマツムシはまるで忍者のようにその姿を隠してしまいます。



マツムシ

マツムシの鳴き声のどこか寂しい余韻のある音色は、秋の夜に物思いにふける人々の琴線に触れ、待つ虫という語呂の使い勝手から、俳句や短歌に詠まれることの多い昆虫です。ある人は冬に向けて人の減っていく風景の寂しさを、ある人は故郷で待つ家族や友人などに想いを馳せて、またある人は恋人を待つ時間の長さや秋の夜の長さを重ねながら、それぞれが物悲しい待ち人への想いを込めて歌ったのでしょうか。このように人の心をも動かすマツムシの鳴き声は、他の鳴く虫と同じく恋の歌、オスがメスを呼ぶためのラブソングです。チンチロ、リンに想いを込めて、秋の夜長を歌い明かすのです。

(広島市森林公園こんちゅう館 藤井)

研修会のご案内

- 9月3日(日)『秋の七草と自然探勝』
秋の七草の学習と自然観察
※自由参加・無料
10:00～12:00 学習室 集合
講師：緑花文化士
横山 直江
- 9月8日(金)『薬草健康講座』
※自由参加・無料
10:00～12:00 学習室 集合
講師：広島国際大学教授
神田 博史
- 9月18日(月・祝)『9月の自然探勝』
初秋の緑を訪ねて
※自由参加・無料
10:00～12:00 管理事務所前 集合
講師：植物研究家
清藤 徹
- 9月24日(日)『きのこ入門観察会』
園内を散策し、発生しているきのこの説明を聞きます
※要予約(先着20名)・無料
10:00～12:00 管理事務所前 集合
講師：きのこアドバイザー
川上 嘉章
- 10月9日(月・祝)『秋のきのこ教室』
園内で採集したきのこの名前と食毒を知ろう
※自由参加・無料
10:00～14:00 第3駐車場 集合
講師：きのこアドバイザー
川上 嘉章

◎ 展示会

場所:レストハウス

(ガラスケース展示)

- ・手作り作品展「モーモーアート」
～9月9日(土)
- ・つづらふじ手作りカゴ作品展
9月10日(日)～11月11日(土)
- (ボード展示)
- ・広島の美味しい なば写真展
～9月10日(日)
- ・ボタニカルアート アーティスト作品展
9月13日(水)～10月15日(日)

場所:学習展示館

- ・福田地区の蝶写真展

～森林公園イベント情報～

- 9月3日(日) 『メンコで遊ぼう』
10:00～12:00・13:00～15:00
オリジナルメンコを作って遊ぼう
- 9月17日(日)～18日(月・祝) 『森の縁日』
(受付)9:00～14:00
昔懐かしい縁日を楽しむ
当日先着500人、300円/枚(6回チケット制)



過去のつづらふじ手作りカゴ作品展より



ボタニカルアート
アーティスト作品展より